

8

[北海道大]

$0 < a < 1$, $0 < \theta < \pi$ とする。4 点 $O(0, 0)$, $A(a, 0)$, $P(\cos \theta, \sin \theta)$, $Q(x, y)$ が条件 $OQ = AQ = PQ$ を満たすとする。このとき、以下の問いに答えよ。

- (1) 点 Q の座標を a と θ で表せ。
- (2) a を固定する。 $0 < \theta < \pi$ の範囲で θ が動くとき、 y の最小値を求めよ。

[名古屋大]

9

関数 $f(x)$ と $g(\theta)$ を

$$f(x) = \int_{-1}^x \sqrt{1-t^2} dt \quad (-1 \leq x \leq 1)$$

$$g(\theta) = f(\cos \theta) - f(\sin \theta) \quad (0 \leq \theta \leq 2\pi)$$

で定める。

- (1) 導関数 $g'(\theta)$ を求めよ。
- (2) $g(\theta)$ を求めよ。
- (3) $y = g(\theta)$ のグラフをかけ。

10

[九州大]

曲線 $y = e^x$ 上を動く点 P の時刻 t における座標を $(x(t), y(t))$ と表し、P の速度ベクトルと加速度ベクトルをそれぞれ $\vec{v} = \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt} \right)$ と $\vec{\alpha} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2} \right)$ とする。すべての時刻 t で $|\vec{v}| = 1$ かつ $\frac{dx}{dt} > 0$ であるとして、次の問いに答えよ。

- (1) P が点 (s, e^s) を通過する時刻における速度ベクトル \vec{v} を s を用いて表せ。
- (2) P が点 (s, e^s) を通過する時刻における加速度ベクトル $\vec{\alpha}$ を s を用いて表せ。
- (3) P が曲線全体を動くとき、 $|\vec{\alpha}|$ の最大値を求めよ。

11

[神戸大]

a, b は実数で $a > b > 0$ とする。区間 $0 \leq x \leq 1$ で定義される関数 $f(x)$ を次のように定める。

$$f(x) = \log(ax + b(1-x)) - x \log a - (1-x) \log b$$

ただし、 \log は自然対数を表す。このとき、以下のことを示せ。

- (1) $0 < x < 1$ に対して $f''(x) < 0$ が成り立つ。
- (2) $f'(c) = 0$ を満たす実数 c が、 $0 < c < 1$ の範囲にただ 1 つ存在する。
- (3) $0 \leq x \leq 1$ を満たす実数 x に対して、 $ax + b(1-x) \geq a^x b^{1-x}$ が成り立つ。

12

[東京大]

- (1) 実数 x が $-1 < x < 1$, $x \neq 0$ を満たすとき, 次の不等式を示せ。

$$(1-x)^{1-\frac{1}{x}} < (1+x)^{\frac{1}{x}}$$

- (2) 次の不等式を示せ。

$$0.9999^{101} < 0.99 < 0.9999^{100}$$

8

[北海道大]

- (1) まず、 $OQ = AQ$ より、 $Q(x, y)$ は線分 OA の垂直二等分線上にあるので、

$$x = \frac{a}{2} \dots\dots\dots ①$$

また、 $OQ = PQ$ より、 Q は線分 OP の垂直二等分線上にある。そこで、 OP の中点の座標 $(\frac{\cos \theta}{2}, \frac{\sin \theta}{2})$ と、

$\vec{OP} = (\cos \theta, \sin \theta)$ より、

$$\cos \theta \left(x - \frac{\cos \theta}{2} \right) + \sin \theta \left(y - \frac{\sin \theta}{2} \right) = 0$$

$$x \cos \theta + y \sin \theta = \frac{1}{2} \dots\dots\dots ②$$

①②より、 $y \sin \theta = \frac{1}{2} - \frac{a}{2} \cos \theta$ となり、 $0 < \theta < \pi$ から $\sin \theta \neq 0$ なので、

$$y = \frac{1 - a \cos \theta}{2 \sin \theta} \dots\dots\dots ③$$

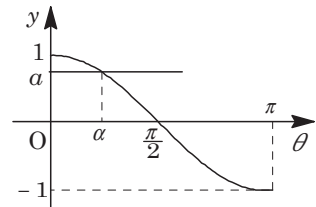
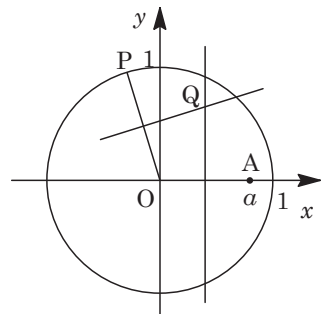
よって、 $Q\left(\frac{a}{2}, \frac{1 - a \cos \theta}{2 \sin \theta}\right)$ である。

- (2) ③より、 $y' = \frac{a \sin^2 \theta - (1 - a \cos \theta) \cos \theta}{2 \sin^2 \theta} = \frac{a - \cos \theta}{2 \sin^2 \theta}$

$0 < a < 1$ から、右図のように、 $a = \cos \alpha$ とおくと、 y の増減は右下表のようになる。

よって、 $\theta = \alpha$ において y は最小となり、このとき $\sin \alpha = \sqrt{1 - a^2}$ から、最小値は、

$$y = \frac{1 - a \cos \alpha}{2 \sin \alpha} = \frac{1 - a^2}{2 \sqrt{1 - a^2}} = \frac{\sqrt{1 - a^2}}{2}$$



θ	0	⋯	α	⋯	π
y'		-	0	+	
y		↘		↗	

[解説]

微分の応用についての頻出タイプの問題です。基本手法の確認のために適切な内容です。

9

[名古屋大]

$$(1) f(x) = \int_{-1}^x \sqrt{1-t^2} dt \cdots \cdots \textcircled{1} \text{より}, f'(x) = \sqrt{1-x^2}$$

また, $g(\theta) = f(\cos \theta) - f(\sin \theta) \cdots \cdots \textcircled{2} \text{より},$

$$\begin{aligned} g'(\theta) &= -f'(\cos \theta) \sin \theta - f'(\sin \theta) \cos \theta \\ &= -\sqrt{1-\cos^2 \theta} \sin \theta - \sqrt{1-\sin^2 \theta} \cos \theta = -\sin \theta |\sin \theta| - \cos \theta |\cos \theta| \end{aligned}$$

$$(2) \textcircled{1} \text{より}, f(-1) = 0, f(0) = \frac{\pi}{4}, f(1) = \frac{\pi}{2} \text{となり}, \textcircled{2} \text{から},$$

$$g(0) = f(1) - f(0) = \frac{\pi}{4}, g\left(\frac{\pi}{2}\right) = f(0) - f(1) = -\frac{\pi}{4}$$

$$g(\pi) = f(-1) - f(0) = -\frac{\pi}{4}, g\left(\frac{3\pi}{2}\right) = f(0) - f(-1) = \frac{\pi}{4}$$

$$(i) 0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2} \text{のとき}$$

$$g'(\theta) = -\sin^2 \theta - \cos^2 \theta = -1, g(\theta) = -\theta + C_1$$

$$\text{ここで}, g(0) = \frac{\pi}{4} \text{から } C_1 = \frac{\pi}{4} \text{となり}, g(\theta) = -\theta + \frac{\pi}{4}$$

$$(ii) \frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \pi \text{のとき}$$

$$g'(\theta) = -\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = \cos 2\theta, g(\theta) = \frac{1}{2} \sin 2\theta + C_2$$

$$\text{ここで}, g\left(\frac{\pi}{2}\right) = -\frac{\pi}{4} \text{から } C_2 = -\frac{\pi}{4} \text{となり}, g(\theta) = \frac{1}{2} \sin 2\theta - \frac{\pi}{4}$$

$$(iii) \pi \leq \theta \leq \frac{3\pi}{2} \text{のとき}$$

$$g'(\theta) = \sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1, g(\theta) = \theta + C_3$$

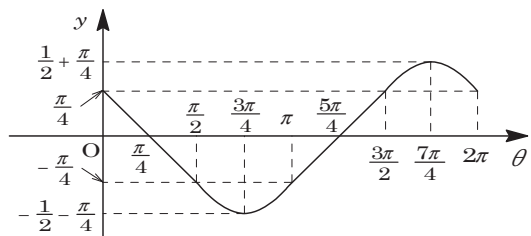
$$\text{ここで}, g(\pi) = -\frac{\pi}{4} \text{から } C_3 = -\frac{5\pi}{4} \text{となり}, g(\theta) = \theta - \frac{5\pi}{4}$$

$$(iv) \frac{3\pi}{2} \leq \theta \leq 2\pi \text{のとき}$$

$$g'(\theta) = \sin^2 \theta - \cos^2 \theta = -\cos 2\theta, g(\theta) = -\frac{1}{2} \sin 2\theta + C_4$$

$$\text{ここで}, g\left(\frac{3\pi}{2}\right) = \frac{\pi}{4} \text{から } C_4 = \frac{\pi}{4} \text{となり}, g(\theta) = -\frac{1}{2} \sin 2\theta + \frac{\pi}{4}$$

(3) (2)より, (i)~(iv)の場合をまとめると, $y = g(\theta)$ のグラフは右図のようになる。



[解説]

合成関数の微分についての興味深い問題です。なお, (2)の $f(0)$, $f(1)$ の値は, 四分円, 半円の面積をもとに導いています。

10

[九州大]

(1) 曲線 $y = e^x$ 上を動く点 $P(x(t), y(t))$ に対して, $\frac{dy}{dt} = \frac{dy}{dx} \cdot \frac{dx}{dt} = e^x \frac{dx}{dt}$

ここで, $|\vec{v}| = 1$ から, $\left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(\frac{dy}{dt}\right)^2 = 1$ なので,

$$\left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + e^{2x} \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 = 1, \quad \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 = \frac{1}{1+e^{2x}}$$

$$\frac{dx}{dt} > 0 \text{ より, } \frac{dx}{dt} = \frac{1}{\sqrt{1+e^{2x}}}, \quad \frac{dy}{dt} = \frac{e^x}{\sqrt{1+e^{2x}}}$$

$$\text{よって, } x = s \text{ において, } \vec{v} = \frac{1}{\sqrt{1+e^{2s}}} (1, e^s)$$

(2) (1)より, $\frac{d^2x}{dt^2} = \frac{d}{dx} \left(\frac{dx}{dt}\right) \frac{dx}{dt} = -\frac{1}{2} \cdot \frac{2e^{2x}}{\sqrt{(1+e^{2x})^3}} \cdot \frac{1}{\sqrt{1+e^{2x}}} = -\frac{e^{2x}}{(1+e^{2x})^2}$

$$\begin{aligned} \frac{d^2y}{dt^2} &= \frac{d}{dx} \left(\frac{dy}{dt}\right) \frac{dx}{dt} = \frac{1}{1+e^{2x}} \left(e^x \sqrt{1+e^{2x}} - e^x \frac{2e^{2x}}{2\sqrt{1+e^{2x}}} \right) \cdot \frac{1}{\sqrt{1+e^{2x}}} \\ &= \frac{e^x(1+e^{2x}) - e^{3x}}{(1+e^{2x})^2} = \frac{e^x}{(1+e^{2x})^2} \end{aligned}$$

$$\text{よって, } x = s \text{ において, } \vec{\alpha} = \frac{1}{(1+e^{2s})^2} (-e^{2s}, e^s)$$

(3) (2)より, $|\vec{\alpha}|^2 = \frac{1}{(1+e^{2s})^4} (e^{4s} + e^{2s}) = \frac{e^{2s}}{(1+e^{2s})^4} (e^{2s} + 1) = \frac{e^{2s}}{(1+e^{2s})^3}$

ここで, $u > 0$ に対して, $f(u) = \frac{u}{(1+u)^3}$ とおくと, $|\vec{\alpha}|^2 = f(e^{2s})$ であり,

$$f'(u) = \frac{(1+u)^3 - u \cdot 3(1+u)^2}{(1+u)^6} = \frac{-2u+1}{(1+u)^4}$$

右表より, $f(u)$ は $u = \frac{1}{2}$ のとき, 最大値 $\frac{4}{27}$ をとり,

これより, $|\vec{\alpha}|$ の最大値は $\sqrt{\frac{4}{27}} = \frac{2}{9}\sqrt{3}$ である。

u	0	...	$\frac{1}{2}$...
$f'(u)$		+	0	-
$f(u)$		↗	$\frac{4}{27}$	↘

[解説]

大学入試ではあまり見かけない速度, 加速度を題材とした問題です。合成関数の微分法がポイントです。

11

[神戸大]

(1) $f(x) = \log(ax + b(1-x)) - x \log a - (1-x) \log b$ に対して,

$$f'(x) = \frac{a-b}{ax+b(1-x)} - \log a + \log b, \quad f'(x) = -\frac{(a-b)^2}{\{ax+b(1-x)\}^2}$$

 $a > b > 0$ から, $0 < x < 1$ において $f''(x) < 0$ となる。(2) まず, $t > 0$ のとき, $g(t) = t - 1 - \log t$ とおくと,

$$g'(t) = 1 - \frac{1}{t} = \frac{t-1}{t}$$

すると, $g(t)$ の増減は右表のようになる。

t	0	...	1	...
$g'(t)$		-	0	+
$g(t)$		↘	0	↗

さて, (1)より, $f'(0) = \frac{a-b}{b} - \log a + \log b = \frac{a}{b} - 1 - \log \frac{a}{b} = g\left(\frac{a}{b}\right)$

$$f'(1) = \frac{a-b}{a} - \log a + \log b = 1 - \frac{b}{a} + \log \frac{b}{a} = -g\left(\frac{b}{a}\right)$$

ここで, $a > b > 0$ から, $\frac{a}{b} > 1$, $0 < \frac{b}{a} < 1$ から, $f'(0) > 0$, $f'(1) < 0$ さらに, (1)から, $0 < x < 1$ で $f'(x)$ は単調減少であるので, $f'(c) = 0$ を満たす実数 c は, $0 < c < 1$ の範囲にただ 1 つ存在することになる。(3) (2)より, $f(x)$ の増減は右表のようになる。また, $f(0) = f(1) = 0$ から, $0 \leq x \leq 1$ において, $f(x) \geq 0$ となり,

$$\log(ax + b(1-x)) \geq x \log a + (1-x) \log b$$

$$\log(ax + b(1-x)) \geq \log a^x b^{1-x}$$

よって, $ax + b(1-x) \geq a^x b^{1-x}$ が成り立つ。

x	0	...	c	...	1
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$		↗		↘	

[解説]

曲線 $y = \log x$ が上に凸であることを題材としています。(2)で, 平均値の定理を直接的に利用しないときは, 上のような解になります。

12

[東京大]

(1) $-1 < x < 1, x \neq 0$ のとき, $f(x) = \log(1+x)^{\frac{1}{x}} - \log(1-x)^{1-\frac{1}{x}}$ とおくと,

$$f(x) = \frac{1}{x} \log(1+x) - \frac{x-1}{x} \log(1-x) = \frac{1}{x} \{ \log(1+x) - (x-1) \log(1-x) \}$$

さらに, $g(x) = \log(1+x) - (x-1) \log(1-x)$ とおくと,

$$g'(x) = \frac{1}{1+x} - \log(1-x) + \frac{x-1}{1-x} = -\frac{x}{1+x} - \log(1-x)$$

$$g''(x) = -\frac{(1+x)-x}{(1+x)^2} + \frac{1}{1-x}$$

$$= \frac{x(x+3)}{(1+x)^2(1-x)}$$

x	-1	...	0	...	1
$g''(x)$		-	0	+	
$g'(x)$		↘	0	↗	

これより, $g'(x) \geq 0$ となり, $g(x)$ は単調に増加し, $-1 < x < 0$ のとき $g(x) < 0$, $0 < x < 1$ のとき $g(x) > 0$ となる。

x	-1	...	0	...	1
$g'(x)$		+	0	+	
$g(x)$		↗	0	↗	

すると, $-1 < x < 1, x \neq 0$ のとき,

$$f(x) = \log(1+x)^{\frac{1}{x}} - \log(1-x)^{1-\frac{1}{x}} = \frac{1}{x} g(x) > 0$$

よって, $\log(1-x)^{1-\frac{1}{x}} < \log(1+x)^{\frac{1}{x}}, (1-x)^{1-\frac{1}{x}} < (1+x)^{\frac{1}{x}} \dots\dots\dots(*)$

(2) $(*)$ より, $(1-x)^{1-\frac{1}{x}}(1+x)^{1-\frac{1}{x}} < (1+x)^{\frac{1}{x}}(1+x)^{1-\frac{1}{x}}$ となり,

$$(1-x^2)^{1-\frac{1}{x}} < 1+x$$

$$x = -\frac{1}{100} \text{ とおくと, } 0.9999^{101} < 0.99$$

また, $(*)$ より, $(1-x)^{1-\frac{1}{x}}(1-x)^{\frac{1}{x}} < (1+x)^{\frac{1}{x}}(1-x)^{\frac{1}{x}}$ となり,

$$1-x < (1-x^2)^{\frac{1}{x}}$$

$$x = \frac{1}{100} \text{ とおくと, } 0.99 < 0.9999^{100}$$

以上より, $0.9999^{101} < 0.99 < 0.9999^{100}$ が成り立つ。

[解説]

微分法の不等式への応用問題です。なお, (2)の式変形については, 結論の不等式を $(1-10^{-4})^{1+10^2} < 1-10^{-2} < (1-10^{-4})^{10^2}$ とみて方針を立てました。